

令和3年度 第2回 広報推進協議会

1. 開催スケジュール

3月25日(金) ～ 3月30日(水)でメール開催
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため

2. 議題

(1)令和3年度 広報推進協議会活動報告

①アンケート「若手の声を聞く」の実施について

※資料-1

(2)令和4年度 広報推進協議会活動予定

- ①令和3年度実施アンケート結果の公表
- ②若手による座談会（オンライン）
- ③リーフレットの活用
- ④継続して行う活動

※資料-1、資料-2、資料-3

以上

【資料】

- ・資料-1 広報推進協議会の活動報告と来年度の活動予定
- ・資料-2 アンケート「若手の声を聞く」実施報告
- ・資料-3 「測量専門養成施設新入生アンケート」実施報告

【参考資料】

- ・参考資料-1 広報推進協議会 設立趣意書
- ・参考資料-2 広報推進協議会 設置要綱
- ・参考資料-3 広報推進協議会構成員名簿
- ・参考資料-4 調整ワーキンググループの設置



広報推進協議会の活動状況報告 と来年度の活動予定

広報推進協議会

(1) 令和3年度の活動報告



アンケート「若手の声を聞く」をWEBで実施

○調査目的

若手技術者の意識を調査し、その結果を測量技術者の中長期的な育成・確保、測量業界のイメージアップ及び測量関係業種の魅力のアピールの促進に繋げていくために活用すること

○調査方法

①メールで依頼

事務局⇒広報推進協議会⇒測量会社⇒調査対象者

②調査対象者は依頼メールにアドレスが記載された入力フォームから回答

○調査時期

令和3年11月29日（月）～12月24日（金）

○調査対象

測量会社勤務の若手技術者（入社3年目まで）

国土地理院の若手技術者（採用3年目まで 普通測量研修員を含む）

○回答数

396名（女性72名、男性324名）

※同様のアンケートを（一財）測量専門教育センターも実施（対象：測量専門養成施設学生）

(2) 令和4年度の活動予定



- ①令和3年度実施アンケート結果の公表
- ②若手による座談会の実施（オンライン）
- ③リーフレットの活用
- ④継続して行う活動

(2) 令和4年度の活動予定



① 令和3年度実施アンケート結果の公表

以下のアンケート結果を広報推進協議会HPで公表

<http://www.sokuryo-koho.com/>

・ アンケート「若手の声を聞く」（広報推進協議会実施） ※資料-2

・ 「測量専門教育センター新入生アンケート」（測量専門教育センター実施） ※資料-3

図3. 測量に出会ったきっかけを教えてください。

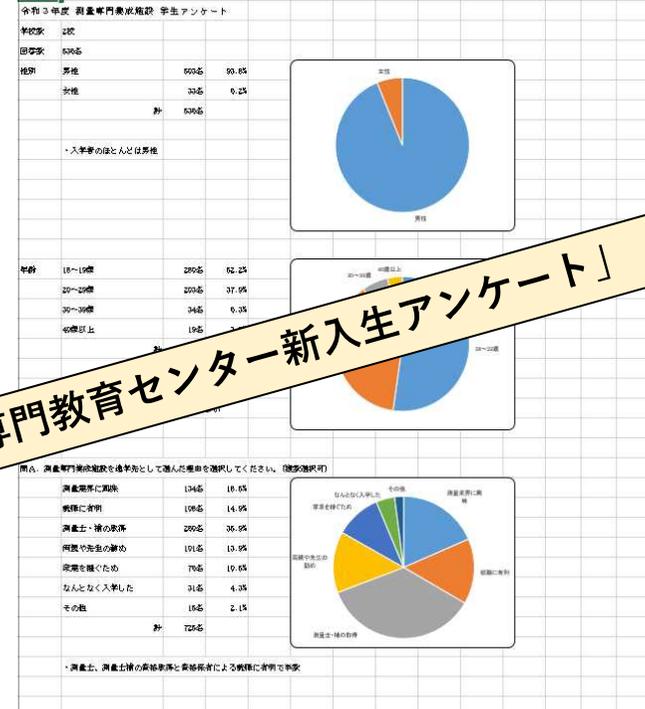


アンケート「若手の声を聞く」

○学生時の講義や授業が半数以上の約6割で、教育機関との連携が重要であることが読み取れる。

- 学生時の講義や授業（自由記述抜粋）
 - ・大学の授業で受けた講義
 - ・専門学校にて学習したため
 - ・高校の授業科目になっていたのがきっかけ

3. アンケート結果



「測量専門教育センター新入生アンケート」

(2) 令和4年度の活動予定



②若手による座談会の実施

【座談会テーマ】

「令和4年度アンケート結果を踏まえて、誰が何をなすべきか？（仮）」

- ・ 令和3年度のアンケート結果を踏まえた具体的なアクション（行動計画）について、若者の視点でざくばらんに意見交換を行う。
- ・ 座談会はオンラインで行い、対象者は若手技術者（男女）と養成施設の学生。
- ・ 座談会の内容は、広報推進協議会HPに掲載する。

(2) 令和4年度の活動予定

③リーフレットの活用

現行のリーフレットを増刷し、配布



リーフレットは、必要に応じてブラッシュアップをしております。

前回ブラッシュアップしたリーフレットは、コロナ禍の影響によるイベント等の縮減もあり、使用頻度が少ないことや、内容デザイン的にも継続使用が可能であろうと考えます。

なお、使用中に指摘、誤字、時点修正等が発生した場合は適時更新することといたします。



未来を創る はじまりの仕事。

私たちの暮らしに
欠かすことのできない測量と地図。
だから私は、この仕事で社会を支える。

測って、描いて、解決する。測量と地図。

広域測量協議会(測量・地図作成分野)

測量の役割や重要性等について、多くの皆様にご理解いただき、熱心を持って頂くために2015年に発足した団体です。測量に関わる産官学の関係者が一体となって取り組みの推進を図っています。

(一社)全国測量計測協会連合会
(一社)測量専門教育センター
(一社)地図測量技術協会
(公社)日本測量協会

(公社)日本測量技術者協会
(一社)測量センター
(一社)国土交通省国土地理院

■ 測量・地図作成の仕事

スマートフォンで誰もが使える地図は、測量が捉えた国土の姿です。国土の姿を適切に捉えることは、国民の安全と安心を確立するためにも、道路や堤防、鉄道、港湾といったインフラを整備・管理するためにも、ひいては経済社会の発展のためにも重要です。

国土の姿は、公共事業を行う国や地方公共団体だけでなく、開発を行う民間事業者や資産管理を行う個人が計画する「測量」によって捉えられています。

また、国土の姿は「地図作成」によって描かれた地図がスマートフォン等でも簡単に見ることができ、日常生活の中にも使われています。

これら「測量」や「地図作成」を担っているのが測量技術者です。測量技術者が国土や社会インフラの位置・形状を測定し記録することによって、我が国の経済社会活動が円滑に実施されているのです。未来を創るはじまりの仕事。それが測量・地図作成の仕事です。

■ 広がる仕事の世界 ～先輩からの一言～

測量技術者の仕事の世界は、国土の姿を捉えるための「測る」こと、国土の姿を伝えるための「描く」こと、我が国の社会経済活動における、例えば自動運転、防災・減災、マーケティング

等にもつわる問題を「解決する」こと等さまざまな領域に広がっています。

それぞれの領域に携わる先輩方の一言を紹介します。

測る	描く	解決する
<p>鳴海 園佳 東日本建設計画(株)</p> <p>トータルステーションや地上レーザスキャナを用いて地形・地物を測り、現況平面図・縦横断面の作成や三次元モデルの作成業務に携わっています。図面が仕上がった時の達成感は格別です。また、UAVの飛行訓練を受け、飛行許可の承認も受けました。新しい機能を扱うことが多く覚えることが大変ですが、やりがいのある仕事なので頑張ります。</p>	<p>安齋 翔次郎 アリア航業(株)</p> <p>国や地方公共団体が管理する区域を高解像度な航空写真等から図面化し、現況把握等を目的とした敷地地図作成を担当しています。作成したデータは当該地域の利用以外に、国土地理院が公開している基礎地図情報としても活用されます。多くの方に利用されるデータを提供できることがこの仕事の魅力だと感じています。</p>	<p>峯野 香織 株式会社スコ</p> <p>市町村向けに、固定資産税評価額に関する資料整備とコンサルティング業務を担当しています。地籍図(課税の基礎となる図面)や航空写真など、測量により整備された地理空間情報を活用することで、市町村が抱える課題の分析と解決に向けた支援を行っています。一見すると無関係に思える税金と測量ですが、地理空間情報は様々な場面で役立っています。</p>

■ 測量にかかわる国家資格

昭和24年(1949年)に公布された測量法に基づく測量技術者の国家資格として「測量士」と「測量士補」があります。多くの測量の計画や実施は、測量法により、これら国家資格者のみに許されています。

測量士・測量士補になる方法は右の図のとおりです。大多数の測量技術者は、測量専門学校や認定を受けた大学を卒業して測量士補資格を取得後、実務経験を積んで測量士資格を取得します。



■ 多分野で活躍する測量技術者

測量技術者は、国や公共機関、民間企業や個人のための多岐にわたる測量に従事し、多彩な経験を積んでいきます。

技術士等の資格を取得してより高度なサービスを提供する、管理職や企業経営者となる、大学等の教員として後進を指導し新技術を開発する、公務員として測量の実務を行う、コンサルティングやマーケティングで活躍するといった活躍の道も、測量技術者には開かれています。



(2) 令和4年度の活動予定



④ 継続して行う活動

	今年度の計画	今年度の実績	来年度の計画
1	アンケート「若手の声を聞く」の実施（再掲）	有り（WEB）	結果の公表（HP）
2	若手による座談会の実施	－	オンライン、内容はHPに掲載
3	リーフレットの活用（再掲）	無し	増刷（必要に応じて時点修正）
4	業界の外とのイメージのギャップについて検討	無し	継続
5	業界のイベント等を協議会ウェブサイトで発信	有り	継続
6	業界等の紹介ビデオ（企業ビデオ）へリンク	無し	継続
7	業界のイベント等をTwitter（ツイッター）で発信	無し	継続
8	業界で活躍している技術者の事例を収集	無し	継続
9	団体機関誌等で協議会ウェブサイトを紹介	無し	継続
10	団体会員によるウェブサイトやリーフレットの利用を強化	有り	継続

(2) 令和4年度の活動予定



業界の魅力をイベントで発信

各団体（支部を含む）のイベント等の予定情報を協議会のサイトに掲載

HPに掲載したい情報等がございましたら、事務局へご連絡ください。

広報推進協議会（測量・地図作成分野）のイベントカレンダー

ようこそ！測量＆地図の世界へ
- 舞台は地球 -

広報推進協議会（測量・地図作成分野）
事務局：国土交通省国土地理院 TEL:029-864-1113

ホーム | 当協議会について | 測って、描いて、解決する | 先輩からの一言 | 活動報告

ホーム > イベントカレンダー

イベントカレンダー

測量のパンフレット・動画

測量に必要な資格

関連サイト

地図と測定の科学館

1869→2019
近代測量150th

2021年イベントカレンダー（10月～）

開催日	イベント名
11月14日(日)	第36回地図地理検定（11月14日）申込開始
10月28日(木)～31日(日)	地図展2021「水路測量150年記念神戸から見る日本の国土と海」の開催について

2021年7月～9月のイベントは終了しました。

2021年4月～6月のイベントは終了しました。

開催日	イベント名
6月13日(日)	第35回地図地理検定
6月5日(土)～30日(水)	第50回国土地理院報告会
12月7日(火)～8日(水)	G空間EXPO2021（東京都立産業貿易センター浜松町館）

2021年1月～3月のイベントは終了しました

開催日	イベント名
1月10日(日)～2月10日(水)	第49回 国土地理院報告会

2020年10月～12月のイベントは終了しました

開催日	イベント名
10月6日(火)～12月20日(日)	企画展 空からの測量60年の歴史ーくにかげが見た日本ー
10月21日(水)～28日(水)	地図展2020 双子都市 前橋・高崎の150年
11月8日(日)	第34回地図地理検定

(2) 令和4年度の活動予定



業界等の紹介ビデオへリンク

各団体の会員が公開している動画を募集し、協議会ウェブサイトからリンク



[「地球を測り社会を支える測量業」](#)
(一社) 静岡県測量設計業協会



[「測量設計の謎を解く旅！」](#)
(一社) 島根県測量設計業協会



[「恋のトータルステーション」](#)
(一社) 北海道測量設計業協会



[「THE測量設計」](#)
(一社) 新潟測量設計業協会

(2) 令和4年度の活動予定



業界のイベント等をTwitterで発信

Twitter アカウント @sokuryokoho



◎2020年4月17日以降ツイートが無い



コロナ禍の影響から、イベント開催も少なかったこともあり、ツイートするタイミングが計れなかった。

昨年度同様、あまり活用されませんでしたので、具体的な利用方法等を検討し、効果的に運用していきたいと考えます。

アンケート「若手の声を聞く」実施報告

～若手測量技術者へのアンケート～

○調査目的

若手技術者の意識を調査し、その結果を測量技術者の中長期的な育成・確保、測量業界のイメージアップ及び測量関係業種の魅力のアピールの促進に繋げていくために活用すること。

○調査方法

①メールで依頼

事務局 ⇒ 広報推進協議会 ⇒ 測量会社 ⇒ 調査対象者

②調査対象者は依頼メールに記載されたURLへアクセスし、入力フォームから回答

○調査期間

令和3年11月29日（月）～12月24日（金）

○調査対象

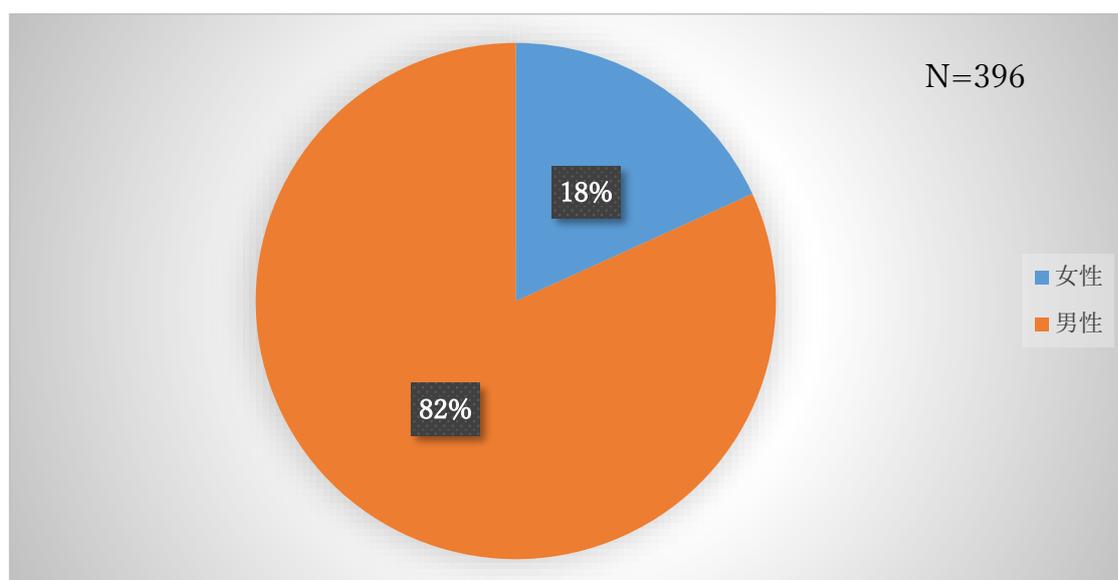
①測量会社勤務の若手技術者（入社3年目まで）

②国土地理院の若手技術者（採用3年目まで（普通測量研修員を含む））

○回答数

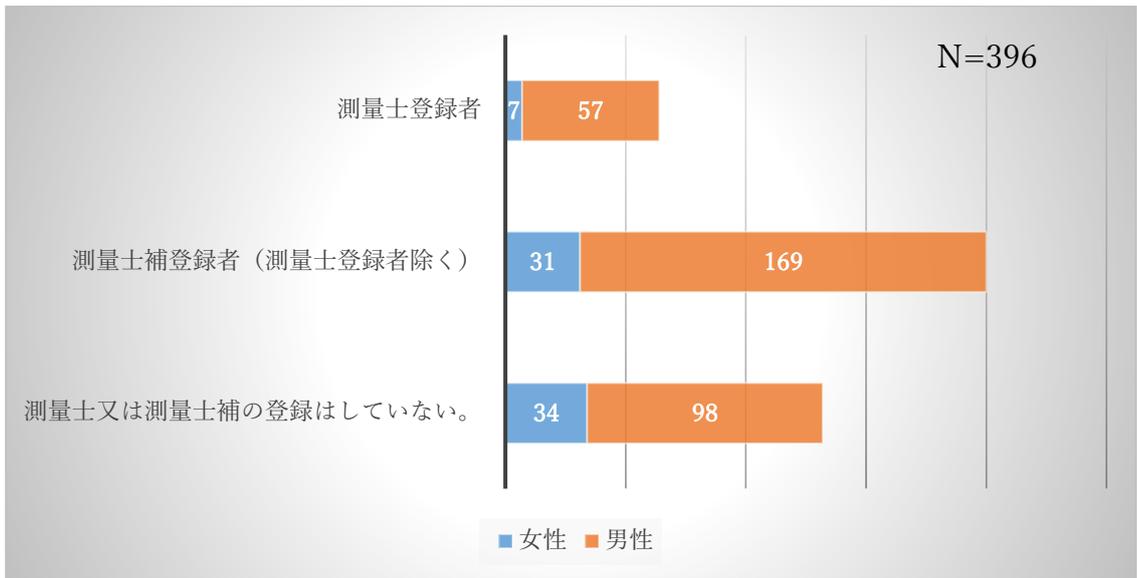
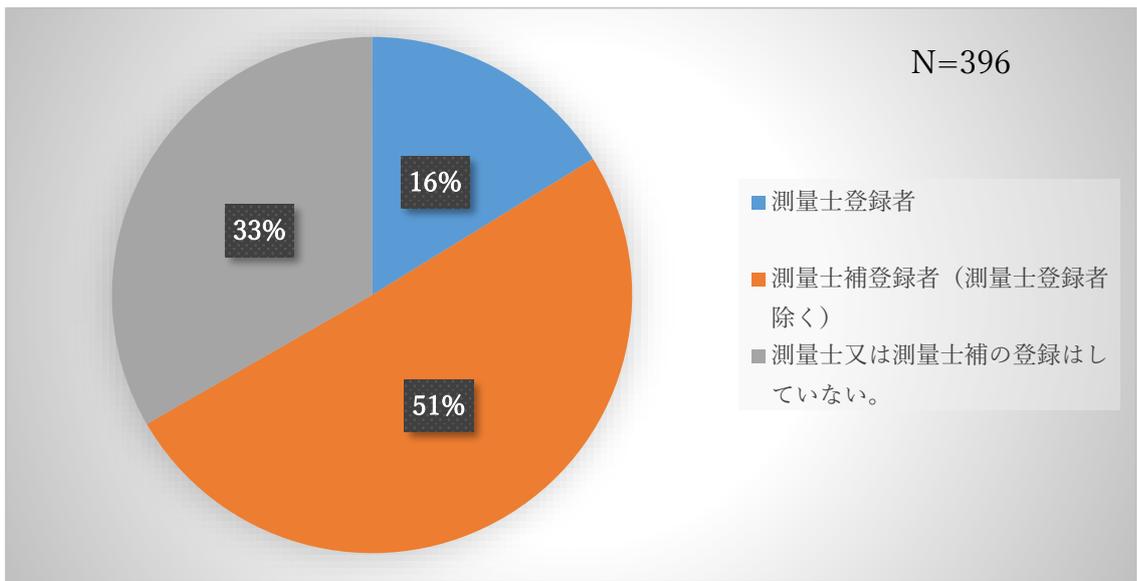
396名（女性72名、男性324名）

問1. 性別について教えてください。



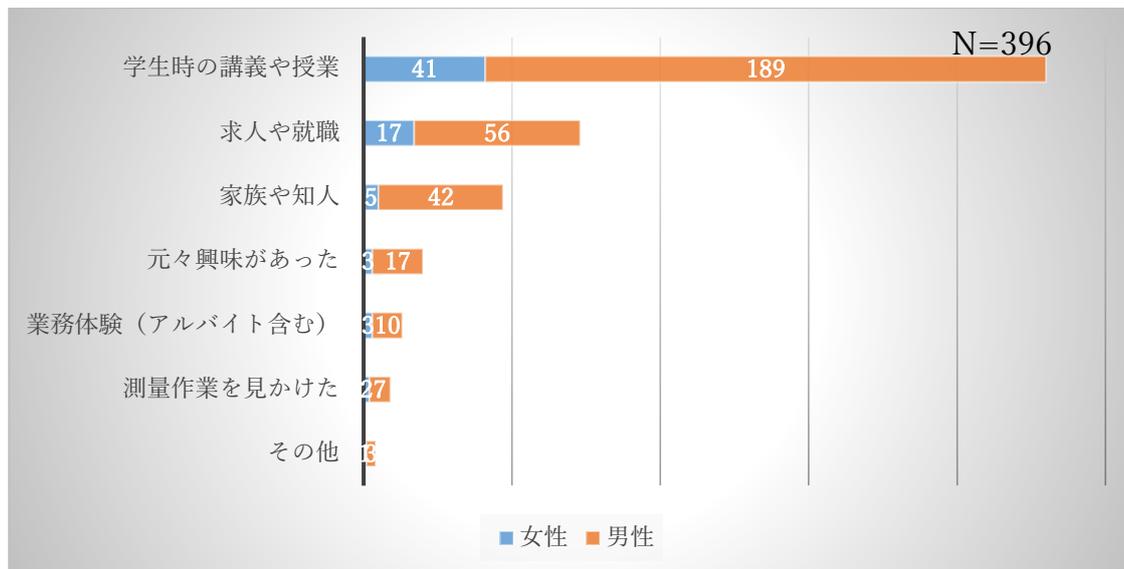
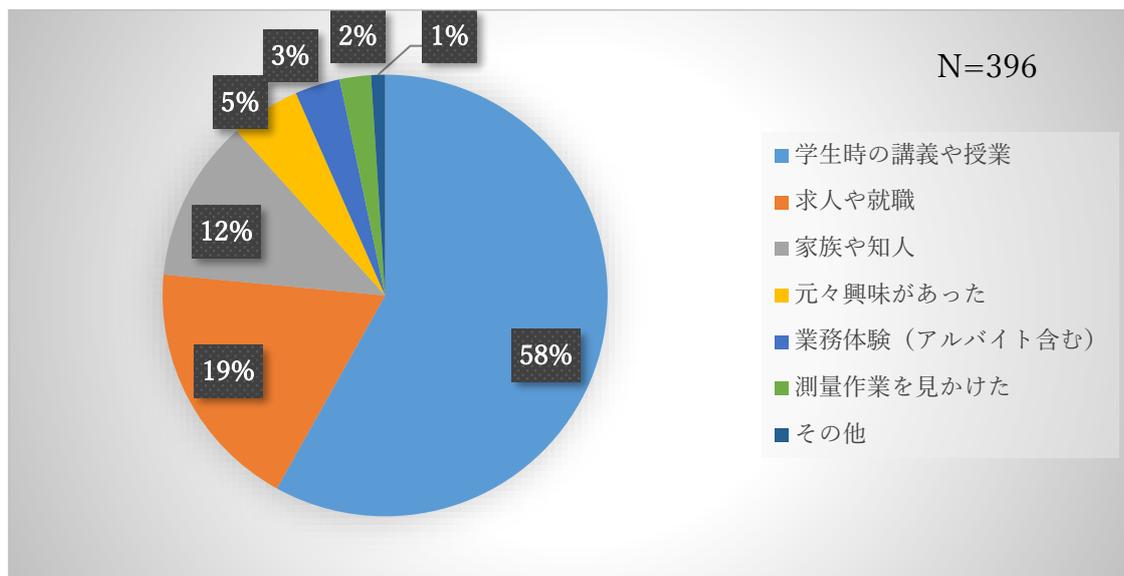
○全体の内、女性は約2割、男性は約8割。

問2. 測量に関する資格について教えてください。



○全体の内、測量士及び測量士補の資格を持っている者は約7割。

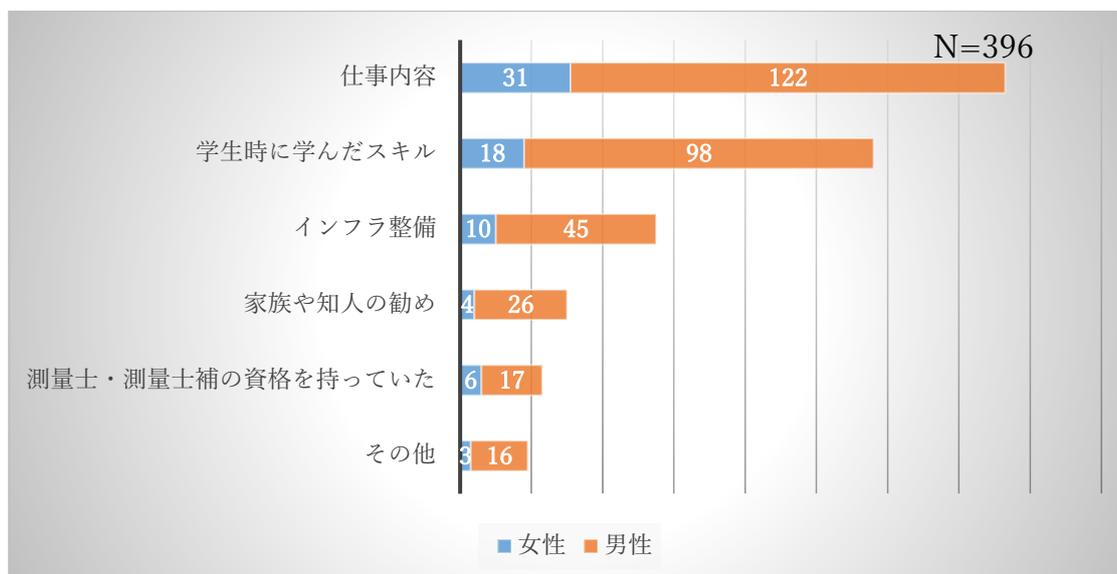
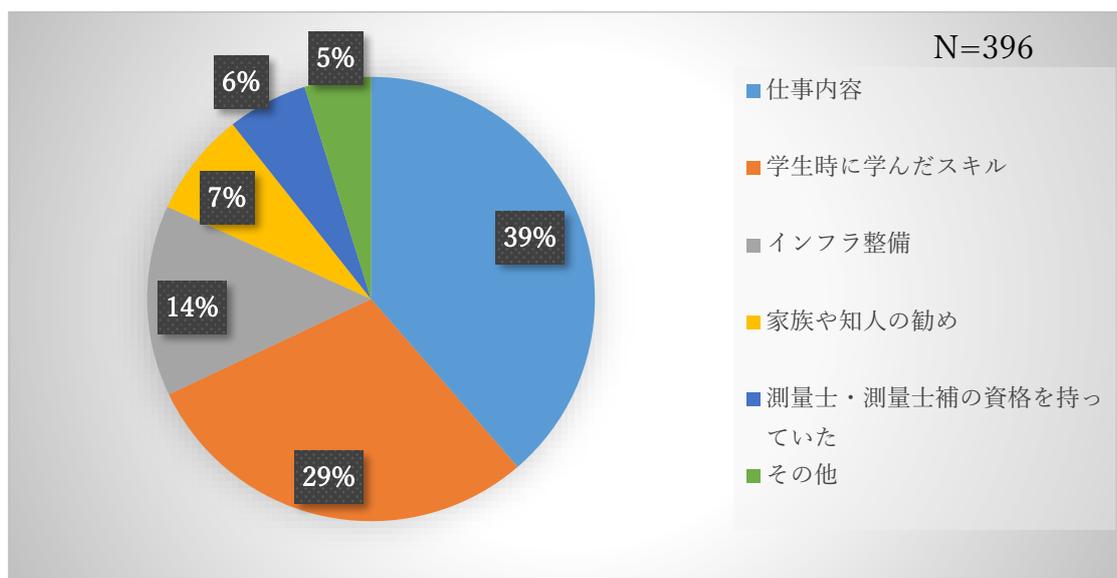
問3. 測量に出会ったきっかけを教えてください。



○学生時の講義や授業が半数以上の約6割で、教育機関との連携が重要であることが読み取れる。

- 学生時の講義や授業（自由記述抜粋）
 - ・大学の授業で受けた講義
 - ・専門学校にて学習したため。
 - ・高校の授業科目になっていたのがきっかけ。

問4. 測量関係の仕事を選んだ理由を教えてください。



○全体の内、仕事内容が約4割、学生時に学んだスキルが約3割となった。

●仕事内容（自由記述抜粋）

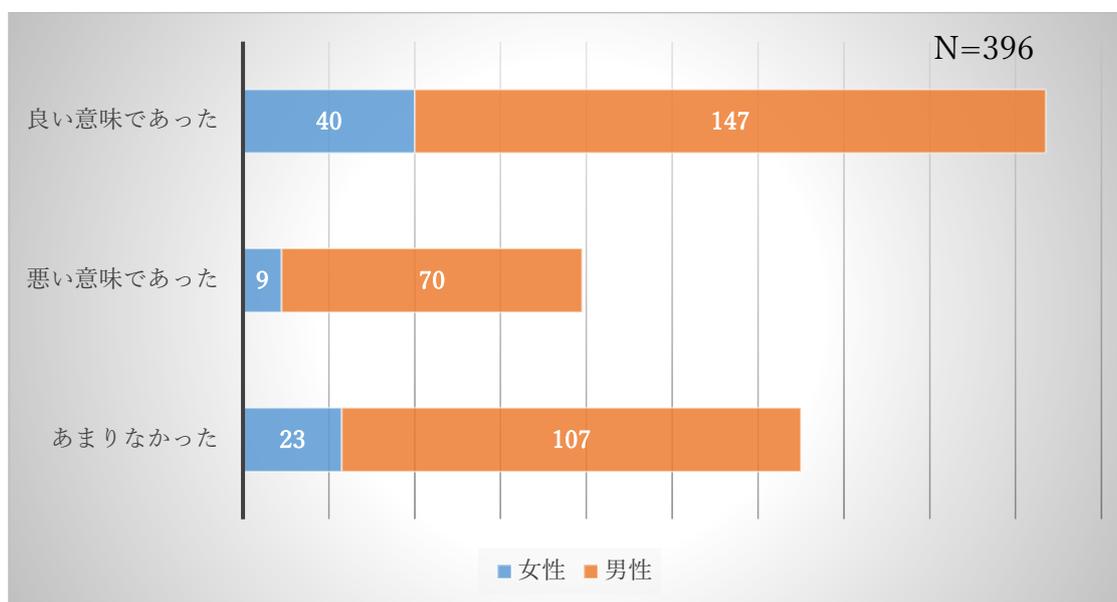
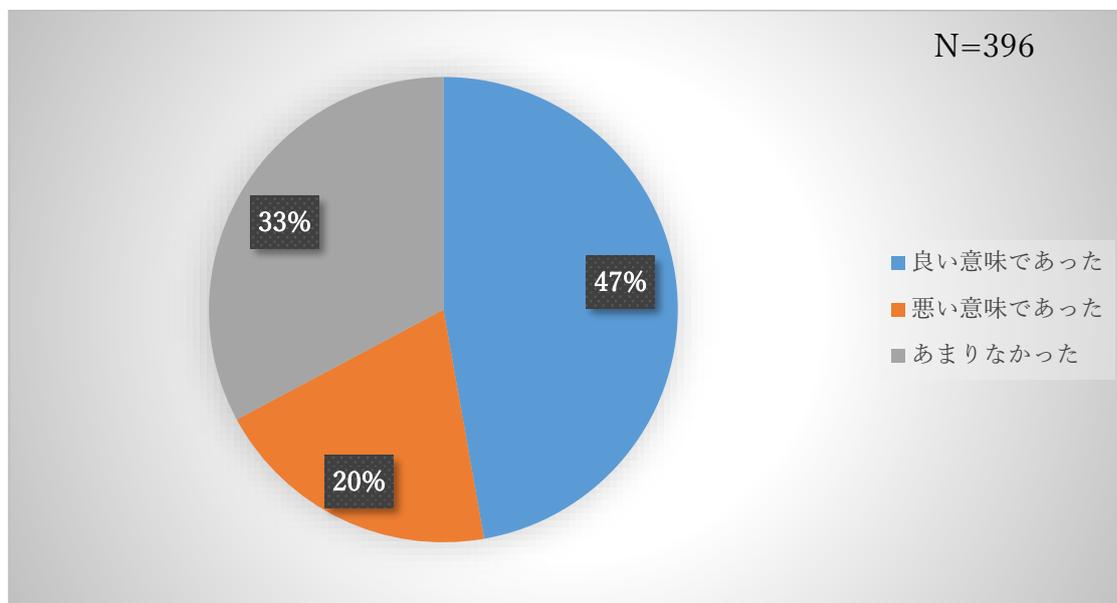
- ・ 区画整理の測量や最先端の測量といった応用的な測量がしたいため。
- ・ 災害時のニュースを見て携わりたくなった為。
- ・ UAVを使用し、データの解析をしてみたいと思い、就職した会社内で測量も行ってた。

●学生時に学んだスキル（自由記述抜粋）

- ・ 大学でセンシングを使って研究していたため。大学でやっていたことを活かしたいと考えたから。

- ・土木関係を学んでいたから。
- ・大学の研究活動を活かせると思ったため。

問5. 測量企業に入ってみて、入社前のイメージと入社後に感じたギャップはありましたか。



○良い意味でギャップを感じたとの回答が約5割、悪い意味でギャップを感じたとの回答が約2割で、良い意味でのギャップを感じたとの回答が悪い意味でギャップを感じたとの回答の2倍以上多かった。一方、ほとんどギャップを感じなかったとの回答も全体の約3割となった。

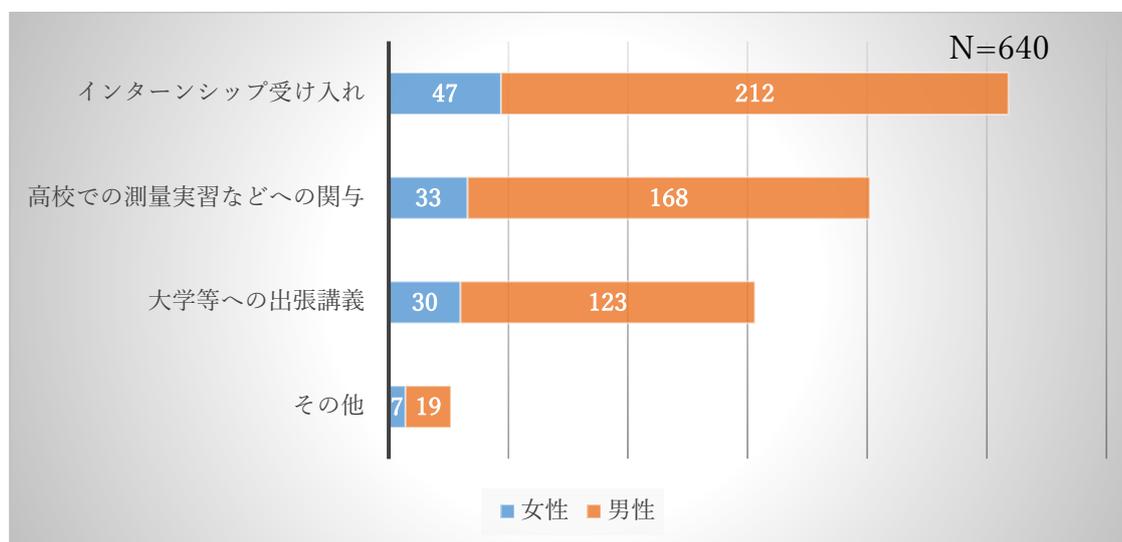
● 良い意味であった（自由記述抜粋）

- ・もっとブラックだと思っていたがそんなことはなかった。
- ・常に堅苦しいイメージでしたが、思っていたよりメリハリがあると感じました。
- ・もっと上司の方が厳しいと思いましたが、思った以上に手取り足取り優しく教えてくれる方が多いと感じたところです。
- ・技術が日々進歩し、最新の機材・手法が導入され続けていっていること。測量＝トータルステーションというイメージは間違いだったと痛感した。
- ・毎日帰りも遅く現場作業で疲れるのかと思っていたいましたが、今はドローンやMMSなどを利用して測量でき、現場作業の短縮ができています

● 悪い意味であった（自由記述抜粋）

- ・現場での作業が思いのほか過酷でした。
- ・法や省令などの決まり事が難しい。
- ・デジタル時代でも人間の目と手による作業が多いと感じた。
- ・繁忙期と閑散期の業務量の差が激しい。
- ・仕事内容が思っていたより難しかった。

問6. 就職活動時に測量企業に望むツールなどをお聞かせ下さい。（複数選択可）

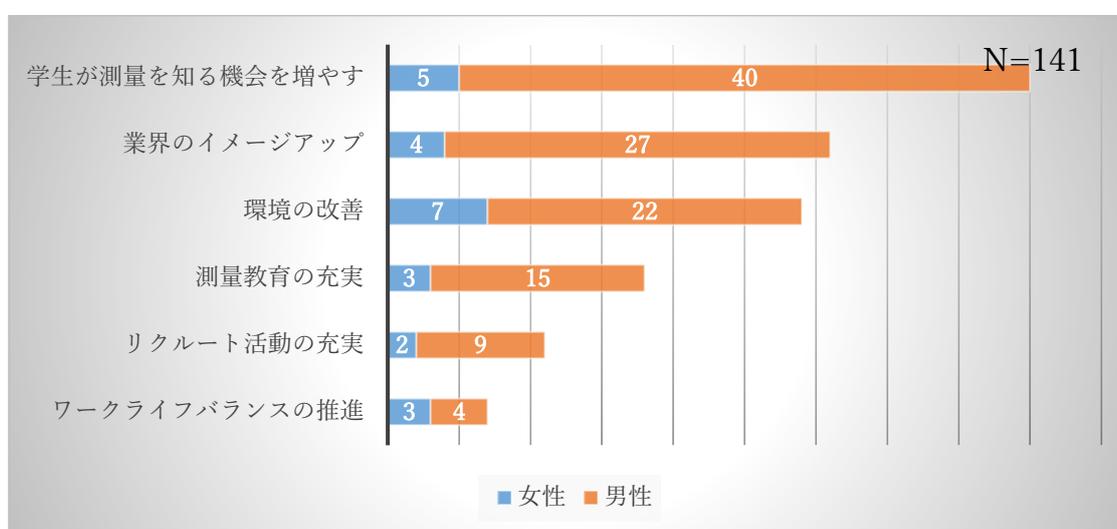


○測量企業にインターンシップ受け入れを望む声が259件と最も多く、続いて高校での測量実習などへの関与を望む声が201件と多かった。実際に業務体験をしたいとの声が多かった事が読み取れる。

問7. 問6で「その他」を選んだ方は具体的なツールをお聞かせ下さい。

- ・YouTubeやSNS等を活用したコンテンツの配信
- ・企業見学の受け入れ
- ・求人情報の充実
- ・広報活動の充実
- ・資格を取得するための補助
- ・母校へのリクルート

問8. 人材確保等に関してご提案・意見があれば、自由にお聞かせ下さい。



○学生が測量を知る機会を増やすことが45件と最も多く、続いて業界のイメージアップが31件、環境の改善が29件と多かった。

●学生が測量を知る機会を増やす（自由記述抜粋）

- ・若い方々が測量という分野に関わる機会を増やすべき。
- ・そもそも測量業界のことを知らない学生が多いので、まずは就職先の選択肢に入れてもらうため大学への積極的な働きかけが必要だと感じる。
- ・工業系の学校以外にも測量士補の資格を取得できる大学等在るため、視野を広げる

●業界のイメージアップ（自由記述抜粋）

- ・就職活動をしていた折りに測量関連の業界は大変という噂をよく耳にしたため、そのイメージ払拭ができるように学生と係わる機会を増やすのが良いのではないかと思います。

- ・ SNSを有効活用すべきだと思います。
- ・ 実際に就職してみると想像よりも働きやすい環境でしたが、就職活動をする際、会社説明の冊子やホームページ等が古いデザインで、全体的にとっつきにくい印象がありました。WEBデザイナーを雇い、ホームページを作り変えるだけでも印象は大きく変わると思いました。

●環境の改善（自由記述抜粋）

- ・ 「観測したデータをその日のうちに図化する」「観測した本人が一番現地を解っているから当人が図化する」という理屈は解るので仕様としては当然ですが、観測から帰ってから残業とセットなのは人材確保の観点からはマイナスが大きいのではないかなあとと思います。
- ・ 他のエンジニアリング企業と負けない収入があれば良いと思います。
- ・ 業務の偏りや技術力の差が少なくなるような制度も勿論必要ですが、そもそも評価基準が年功序列だったり業務の成果外だったりすることが多いように見受けられますので、そこが確立されているような企業は魅力的だと思います。

●測量教育の充実

- ・ 大学時代は講義で何となく理解していたが実際に仕事をしてみると講義以上に初めて覚えることが多いため測量企業が大学と連携して事業を進めていくことで実際の成果と作業内容をつかむことができ人材確保につながるのではないかと思う。
- ・ 就職前までに測量に関わったことのある学生は極めて少ないと思うので、採用する学生の分野は問わず、その分、就職後に十分な期間の研修を設けるようにすると、測量企業を敬遠する就活生も減少すると思う。（自身も就職後に十分な研修があるということを前提に、現職場に就職した。）
- ・ 新人研修などの社内研修以外に、社外での(現場など)実践的な研修を行うと良いと思う。

●リクルート活動の充実

- ・ 従来の土木・建築・地理学の分野に加え、GPS測量や航空測量が発達した現在においては機械系・航空系・宇宙系(?)の分野にも測量をアピールする機会があるのではないかと思います。
- ・ 文系と理系では分けられない方々に人材確保の余地があると思う。
- ・ 大学等の就職支援に積極的にアプローチすべき。

●ワークライフバランスの推進

- ・ 女性が働きやすい環境づくり、女性が働き続けられる環境づくり。

- ・私は女なので、将来結婚や出産を控えたとき、会社に迷惑をかけるのではと考えてしまいます。また周囲に同業の女性がいないため、どうやって乗り越えたのか、どういう工夫をしたり協力があつたのか等の情報収集が難しいと感じています。長くこの業界で活躍し続けている方のモデルケースや体験談等の紹介や、オンラインのイベントは時間によって参加できないことが多いので掲示板のような形で交流できる場があればいいなと思います。私の会社では女性社員の結婚・出産に関する問題が初めてのケースになるため、他社での工夫等を知ることにより相談のしやすさにつながり、引いては長く勤める環境づくりにもつながるのではないかと考えます。
- ・完全週休二日制の土日休みというのが今の会社を選んだ大きなポイントでもあつたので、働き方改革が進んでいるこれからの時代に若い人はその点を重視する人も多いと思う。

令和3年度

測量専門養成施設

新入生アンケート 実施報告

令和3年12月実施

一般財団法人 測量専門教育センター

1. 調査期間

令和3年12月1日(水) ~ 令和3年12月24日(金)

2. 調査対象

学校数 8校

学科数 21学科

回答数 536名

学校名	学科名	修業年限	回答数	
中央工学校 (東京都)	土木建設科	2年制	67名	156名
	測量科	1年制	51名	
	土木測量科(夜間)	2年制	17名	
	地理空間情報科 ※	1年制	21名	
九州測量専門学校 (熊本県)	測量科	1年制	21名	54名
	測量情報科	2年制	2名	
	土木建設科	2年制	4名	
	環境情報科	2年制	9名	
	国際工学科	3年制	18名	
近畿測量専門学校 (大阪府)	測量専門学科	1年制	29名	72名
	情報測量学科	2年制	43名	
仙台工科専門学校 (宮城県)	測量学科	1年制	32名	60名
	環境土木工学科	2年制	28名	
福岡国土建設専門学校 (福岡県)	測量技術科	1年制	35名	60名
	都市環境設計科	2年制	25名	
札幌工科専門学校 (北海道)	環境土木工学科	2年制	21名	36名
	測量情報科	1年制	15名	
岡山科学技術専門学校 (岡山県)	測量環境工学科	2年制	28名	28名
東海工業専門学校金山校 (愛知県)	測量設計科	2年制	25名	70名
	測量科	1年制	20名	
	測量研究科 ※	1年制	25名	

※4号施設 (卒業と同時に測量士取得)

3. アンケート結果

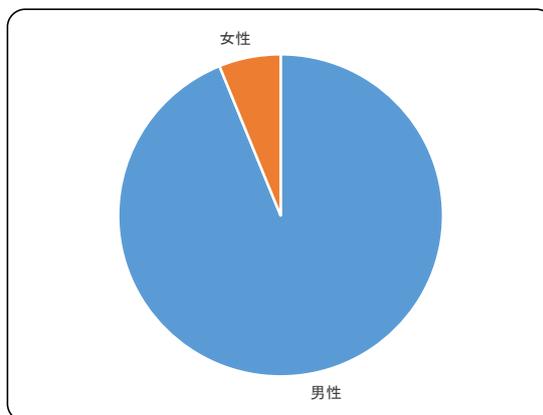
令和3年度 測量専門養成施設 学生アンケート

学校数 2校

回答数 536名

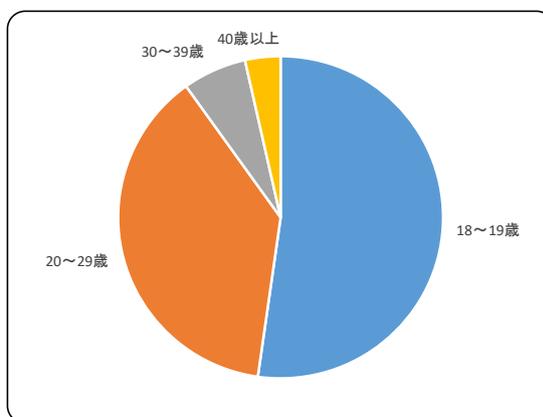
性別	男性	503名	93.8%
	女性	33名	6.2%
	計	536名	

・入学者のほとんどは男性



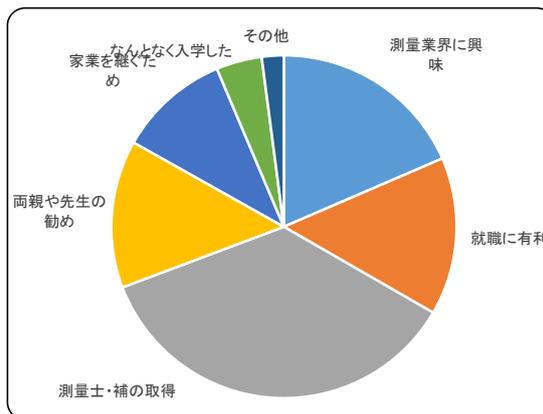
年齢	18～19歳	280名	52.2%
	20～29歳	203名	37.9%
	30～39歳	34名	6.3%
	40歳以上	19名	3.5%
	計	536名	

・入学者の約半数は高等学校新卒者
 ・1年制、4号施設、夜間は20歳以上が多い



問A. 測量専門養成施設を進学先として選んだ理由を選択してください。(複数選択可)

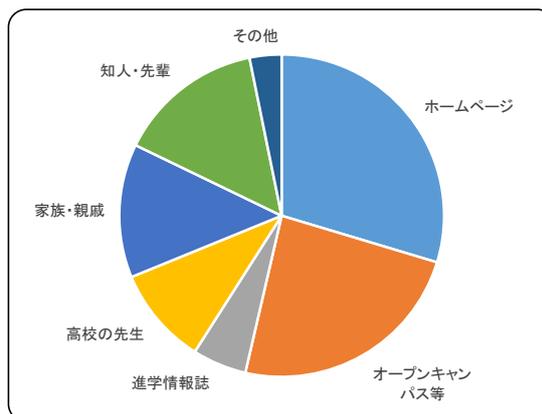
測量業界に興味	134名	18.5%
就職に有利	108名	14.9%
測量士・補の取得	260名	35.9%
両親や先生の勧め	101名	13.9%
家業を継ぐため	76名	10.5%
なんとなく入学した	31名	4.3%
その他	15名	2.1%
計	725名	



・測量士、測量士補の資格取得と資格保有による就職に有利で半数

問B. 入学した学校を知るうえで役立つ情報源を選択してください。(複数選択可)

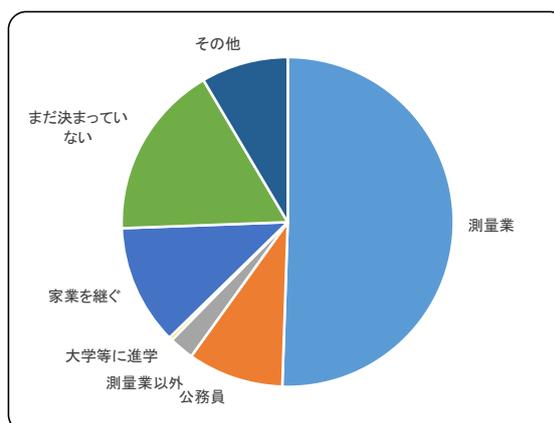
ホームページ	215名	29.7%
オープンキャンパス等	173名	23.9%
進学情報誌	39名	5.4%
高校の先生	71名	9.8%
家族・親戚	97名	13.4%
知人・先輩	106名	14.6%
その他	23名	3.2%
計	724名	



- ・学校独自の広報活動が最も多い
- ・高校の先生、家族・親戚、知人・先輩など口コミも多い

問C. 現時点で、卒業後の進路をどう考えていますか。(複数選択可)

測量業	292名	50.5%
公務員	54名	9.3%
測量業以外	14名	2.4%
大学等に進学	2名	0.3%
家業を継ぐ	68名	11.8%
まだ決まっていない	99名	17.1%
その他	49名	8.5%
計	578名	



- ・約半数が測量業に就職を希望
- ・入学動機にもある家業を継ぐ学生も多い
- ・高等学校新卒者の学生は未定が多い

広報推進協議会 設立趣意書

我々国民の生活は、安全・安心が確保されることではじめて、質の高い豊かなものとなることが可能となります。国土を適切に管理し保全することは、国民の安心・安全を守るために重要な取組であり、そのためには、国土を測ることによりその姿を適切に捉えることが不可欠です。測量は、国土を測る事業であり、様々な生活基盤の整備を支える、重要なインフラ事業の1つです。

また、近年、激化する自然災害に備えるため、防災に関する様々な取組が進められています。災害が発生する前の対策や、災害が発生した直後の被災状況の把握、災害への応急対応、災害からの復旧・復興など、様々な場面における防災に関する取組の中でも、測量は大きな役割を果たしています。災害の状況や危険性を具体的な位置情報として計測・記録し、その測量成果を活用することで、現場の状況の適切な把握や、その対策を具体的に検討することが可能となります。

さらに、自分のいる位置を把握し、これを活用した高度なサービスを展開する社会、いわゆる地理空間情報高度活用社会は、例えば車両や歩行者の適切な誘導や、効率的な物流の推進、安心・安全に関する情報の共有など、多種多様な業界で実現しつつあります。こうした地理空間情報高度活用社会を支えるために必要となる地図等の地理空間情報は、測量によって整備された情報です。

このように、測量が社会に果たす役割は非常に大きいものの、社会経済活動のための基礎的な情報基盤整備という位置づけもあり、測量という事業の価値や重要性、また測量に従事する技術者の役割等について、国民の十分な理解があるとは言い難い状況です。こうしたことから、測量にたずさわる産学官の関係者が連携して、測量の役割や重要性等について、適切かつ戦略的に周知を行う必要があります。

このたび、測量についての国民の幅広い理解を推進するため、産学官の関係者が一体となって取り組む体制として、広報推進協議会（仮称）の設立をここに呼びかけます。広報推進協議会（仮称）が中心となって、測量に関する広報の取組を推進することを通じて、測量に関する産学官の関係者の連携が一層深まり、測量に関する国民の理解や関心を高め、測量業全体が一層発展することを目指します。

平成27年12月18日

発起人一同(内訳別紙)

(発起人内訳)

(一社)全国測量設計業協会連合会
会 長 野瀬 操

(一財)測量専門教育センター
会 長 上條 勝也

(一社)地図調製技術協会
会 長 大塚 冀一

(公社)日本測量協会
会 長 矢口 彰

(公財)日本測量調査技術協会
会 長 岡部 篤行

(一財)日本地図センター
理事長 野々村 邦夫

国土交通省国土地理院
院 長 越智 繁雄

広報推進協議会 設置要綱

平成２７年１２月１８日
広報推進協議会

(名 称)

第１条 本組織の名称は、広報推進協議会（以下「協議会」という。）とする。

(目 的)

第２条 協議会は、測量の役割や重要性等に対する多くの国民の理解を深め、関心を高めるために行う測量に関する周知や広報等について、測量にたずさわる産学官の関係者が個々に実施してきた取組をさらに一層効果的なものとするために、関係者が一体となって適切かつ戦略的に実施することを目指し、その方策等を検討し取組の推進を図ることを目的とする。

(所 掌)

第３条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号に示す事項を所掌する。

- (１) 産学官の関係者が連携して実施する、測量に係る広報戦略の策定に関すること。
- (２) 前号の広報戦略に基づく、測量に係る広報活動の企画及び具体化並びにこれらの実現に向けた、産学官の関係者間の連絡及び調整に関すること。
- (３) その他前条の目的を達成するために必要なこと。

(構 成)

第４条 協議会は、別紙の者をもって構成する。

- ２ 協議会に座長を置き、協議会の構成員の中より互選をもって充てる。
- ３ 座長は、協議会の議事を運営するものとする。
- ４ 第３条の具体的な検討にあたり、座長は協議会の構成員以外の有識者に対しアドバイザーとして協議会への出席を求め、必要な助言を得ることができるものとする。

(協議会の開催)

第５条 座長は、協議会を招集する。

- ２ 座長は、協議会を招集しようとする場合は、会議の日時、場所及び議事をあらかじめ構成員に通知する。

(議 決)

第６条 協議会は、構成員の過半数が出席しなければ、開催し、議決をすることができない。

- ２ 協議会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、座長の決するところによる。

(ワーキンググループ)

第７条 協議会には、個別の具体的な取組の検討及びその実施のため、個別の課題

毎にワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置することができる。
2 WG の検討内容、構成員その他必要な事項は、協議会において定める。

（報酬等）

第8条 協議会への構成員の出席に対し、当該出席による報酬及び旅費等は支弁しないものとする。

（事務局）

第9条 協議会の事務局は、国土交通省国土地理院に置く。

（その他）

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、座長が協議会に諮って定める。

（附 則）

この要綱は、平成27年12月18日から施行する。

広報推進協議会構成員名簿

令和03年09月16日 現在

区分	氏名	所属等	備考	
構成 団体	田崎 昭男	(一社)全国測量設計業協会連合会	事務局長	
	藤澤 浩昭	〃	企画部長	
	宮山 博文	(一財)測量専門教育センター	事務局長	
	土田 俊行	〃		
	田中 尚行	(一社)地図調製技術協会	専務理事	
	伊藤 等	〃	事務局長	
	宇田 厚生	(公社)日本測量協会	総務部長	
	廣田 三成	〃	測量技術センター 管理部長	
	川久保 雄介	(公財)日本測量調査技術協会	専務理事	
	中島 秀敏	〃	事務局長	
	百成 了一	(一財)日本地図センター	常務理事・流通事業部長	
	山口 桂司	〃	総務部長	
	行政	金澤 裕勝	国土交通省国土地理院	参事官
		乙井 康成	〃	企画部 地理空間情報活用推進分析官
アドバイザー	鹿田 正昭	金沢工業大学	副学長	
オブザーバー	桑村 貴志	国土交通省 不動産・建設産業局 建設市場整備課 専門工事業・建設関連業振興室	企画専門官	

調整ワーキンググループの設置

広報推進活動の一層の充実を図るための新たな企画提案やその具体化、これらの実現に向けた取り組みを検討する際に、各団体の担当者が、必要の都度随時会して打合せ（意見調整）ができる場を設ける必要があるため、「広報推進協議会設置要領」第7条に基づき「調整ワーキンググループ」を設置する。

※ 参考：「広報推進協議会設置要綱」（抜粋）（ワーキンググループ）

第7条 協議会には、個別の具体的な取組の検討及びその実施のため、個別の課題毎にワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置することができる。

2 WGの検討内容、構成員その他必要な事項は、協議会において定める。

調整ワーキンググループ構成員メンバー表

令和03年09月16日 現在

氏 名	所 属 等
田崎 昭男 藤澤 浩昭	(一社) 全国測量設計業協会連合会
宮山 博文	(一財) 測量専門教育センター
伊藤 等	(一社) 地図調製技術協会
宇田 厚生 田中 康公	(公社) 日本測量協会
中島 秀敏	(公財) 日本測量調査技術協会
山口 桂司	(一財) 日本地図センター
南雲 吉久 高橋 正幸	国土交通省国土地理院